



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education

# 特別支援教育の歩みと研究所の取組

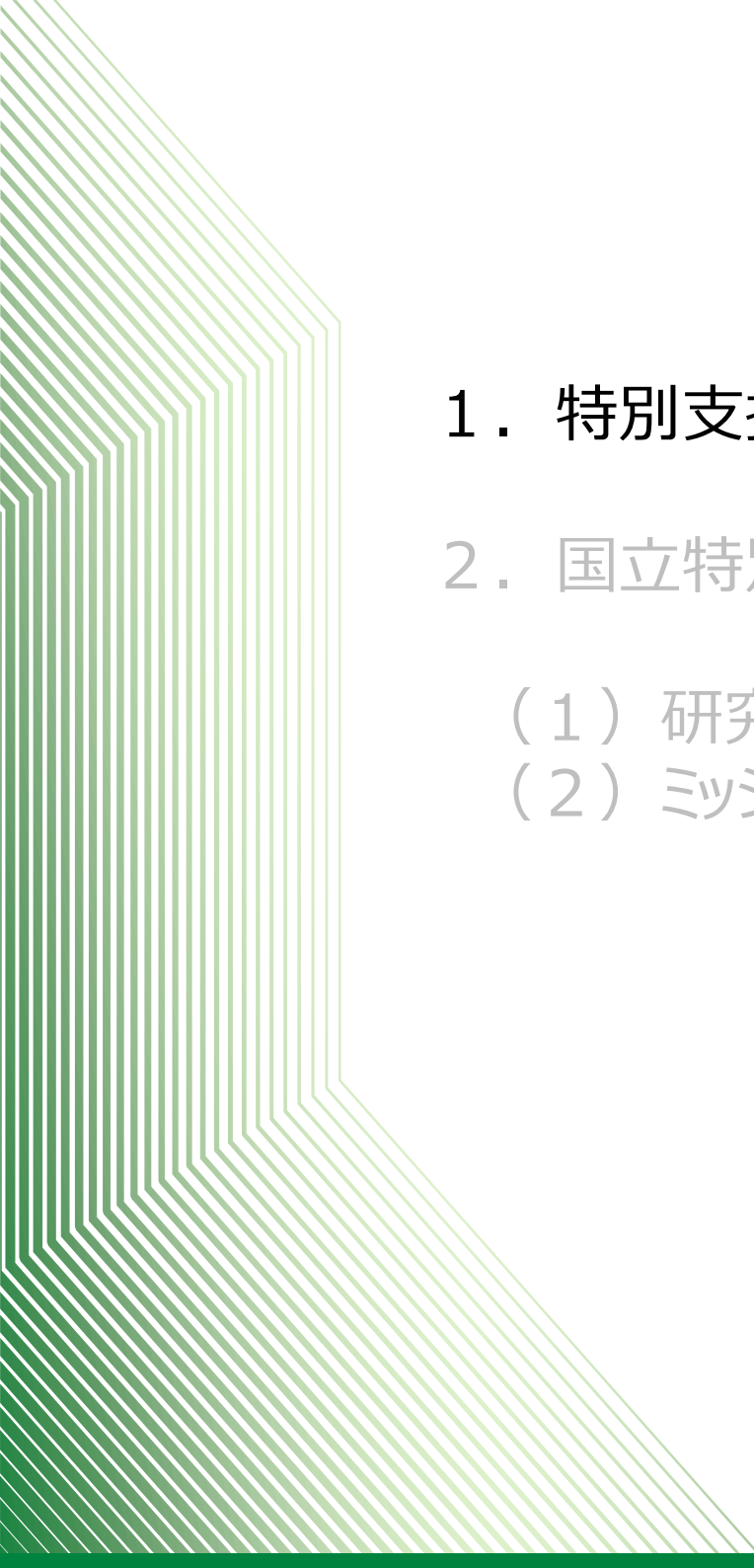
2024/09/07 Sat

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 理事長 中村 信一

# 本日のお話

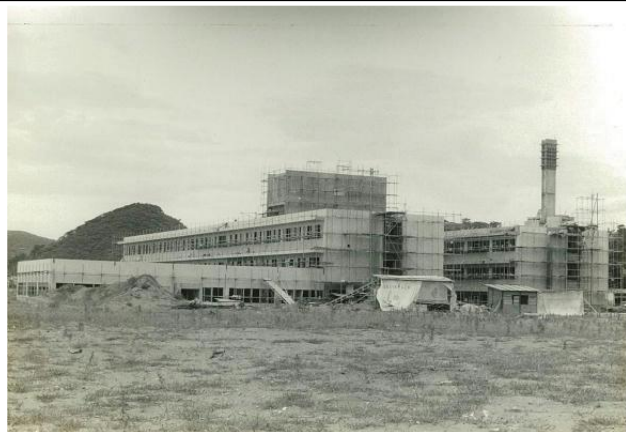
1. 特別支援教育のこれまで
2. 国立特別支援教育総合研究所としての取組
  - (1) 研究所のミッション
  - (2) ミッションを達成するための取組



- 
1. 特別支援教育のこれまで
  2. 国立特別支援教育総合研究所としての取組
    - (1) 研究所のミッション
    - (2) ミッションを達成するための取組

## 特別支援教育の歴史と当研究所の沿革

昭和22年	学校教育法制定（盲・ろう・養護学校、小・中学校の特殊学級制度化）
昭和23年	盲・ろう学校の就学義務化
昭和46年10月	国の所轄機関として国立特殊教育総合研究所設置
昭和52年 9月	特殊教育センター全国協議会（現 全国特別支援教育センター協議会）発足
昭和54年	養護学校の就学義務化
平成 5年	通級による指導制度化
平成13年 4月	独立行政法人化（主務大臣：文部科学大臣）
平成14年	就学制度改正（「認定就学」制度化等）
平成17年	発達障害者支援法制定
平成18年	LD、ADHDも通級による指導の対象（併せて自閉症を明記）



建設途中の研究所



開所式

## 特別支援教育の歴史と当研究所の沿革

平成19年4月	特別支援教育の本格的実施（平成18年3月学校教育法等改正）（「特殊教育」から「特別支援教育」へ）、 <b>（独）国立特別支援教育総合研究所に名称変更</b>
平成19年9月	障害者権利条約署名
<b>平成20年 4月</b>	<b>発達障害教育情報センター設置</b>
平成23年8月	改正障害者基本法施行（障害者権利条約対応）
平成25年9月	就学制度改正（学校教育法施行令改正）
平成26年1月	障害者権利条約批准
平成28年4月	障害者差別解消法施行（平成25年6月制定）、 <b>インクルーシブ教育システム推進センター設置</b>
平成28年6月	改正児童福祉法施行（即日施行）
平成28年8月	改正発達障害者支援法施行（平成28年6月公布）
<b>平成29年 4月</b>	<b>発達障害教育推進センター設置（発達障害教育情報センターの機能強化）</b>
平成30年4月	高等学校における通級による指導の制度化（平成28年12月学校教育法施行規則等改正）
令和 4年12月	文科省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」結果公表→小・中学校の通常学級で学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合は8.8%

## 教育振興基本計画（令和5年6月15日閣議決定）抜粋

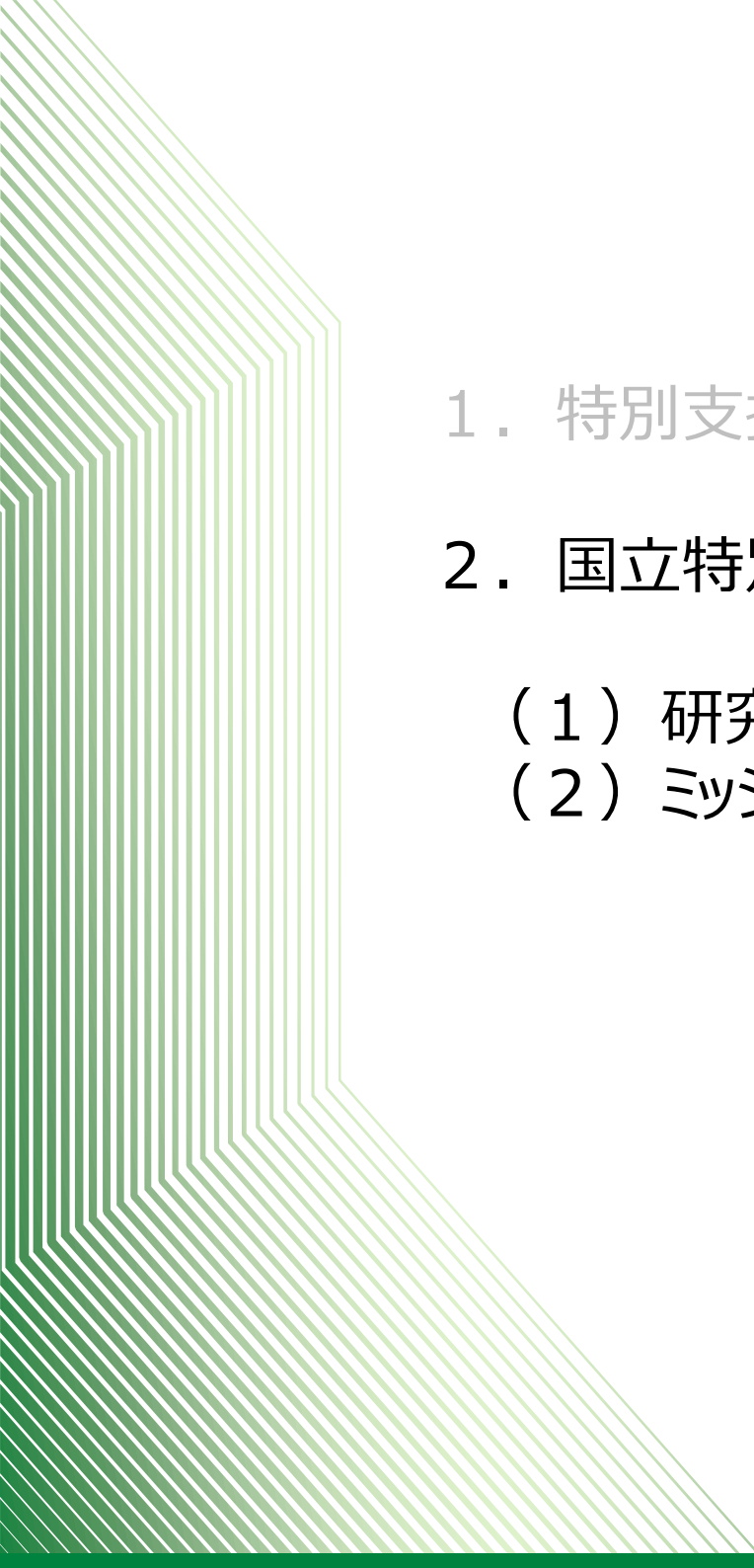
### Ⅱ. 今後の教育政策に関する基本的な方針

（5つの基本的な方針）

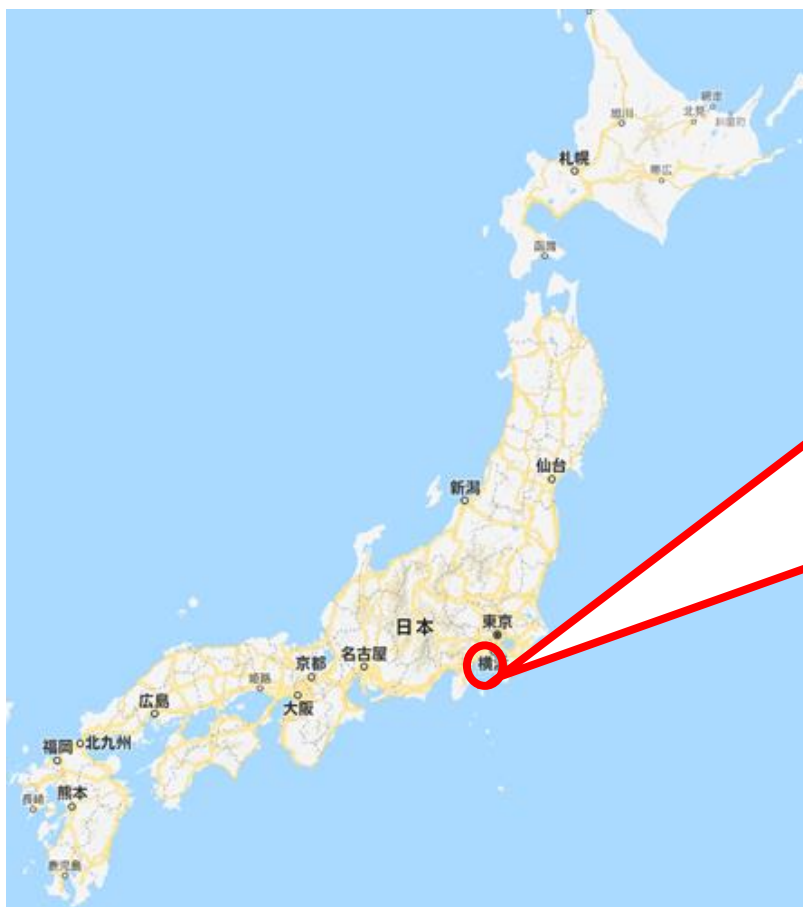
#### ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

（共生社会の実現に向けた教育の方向性）

- 「令和の日本型学校教育」答申で提言された「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」は、**多様な子供の状況に応じた学びを進めるとともに、多様な他者と学び合う機会を確保**するものであり、**共生社会の実現に向けて必要不可欠な教育政策の方向性**である。また、障害者の権利に関する条約に基づく**インクルーシブ教育システムを推進していくことも重要**である。高等教育においては、グランドデザイン答申をはじめとする累次の答申・審議まとめ等において、多様な価値観を持つ多様な人材が集まるキャンパスにおいて、一人一人の学生の学修意欲を喚起し、学修者本位の教育を提供していく方向性が示されている。こうした**目指すべき教育の方向性を共生社会の実現という観点から改めて捉え直し、教育に携わる者が共有した上で、日常の教育の営みの中に取り込んでいかなければならない。**

- 
1. 特別支援教育のこれまで
  2. 国立特別支援教育総合研究所としての取組
    - (1) 研究所のミッション
    - (2) ミッションを達成するための取組

# 我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンター



所在地：神奈川県横須賀市野比

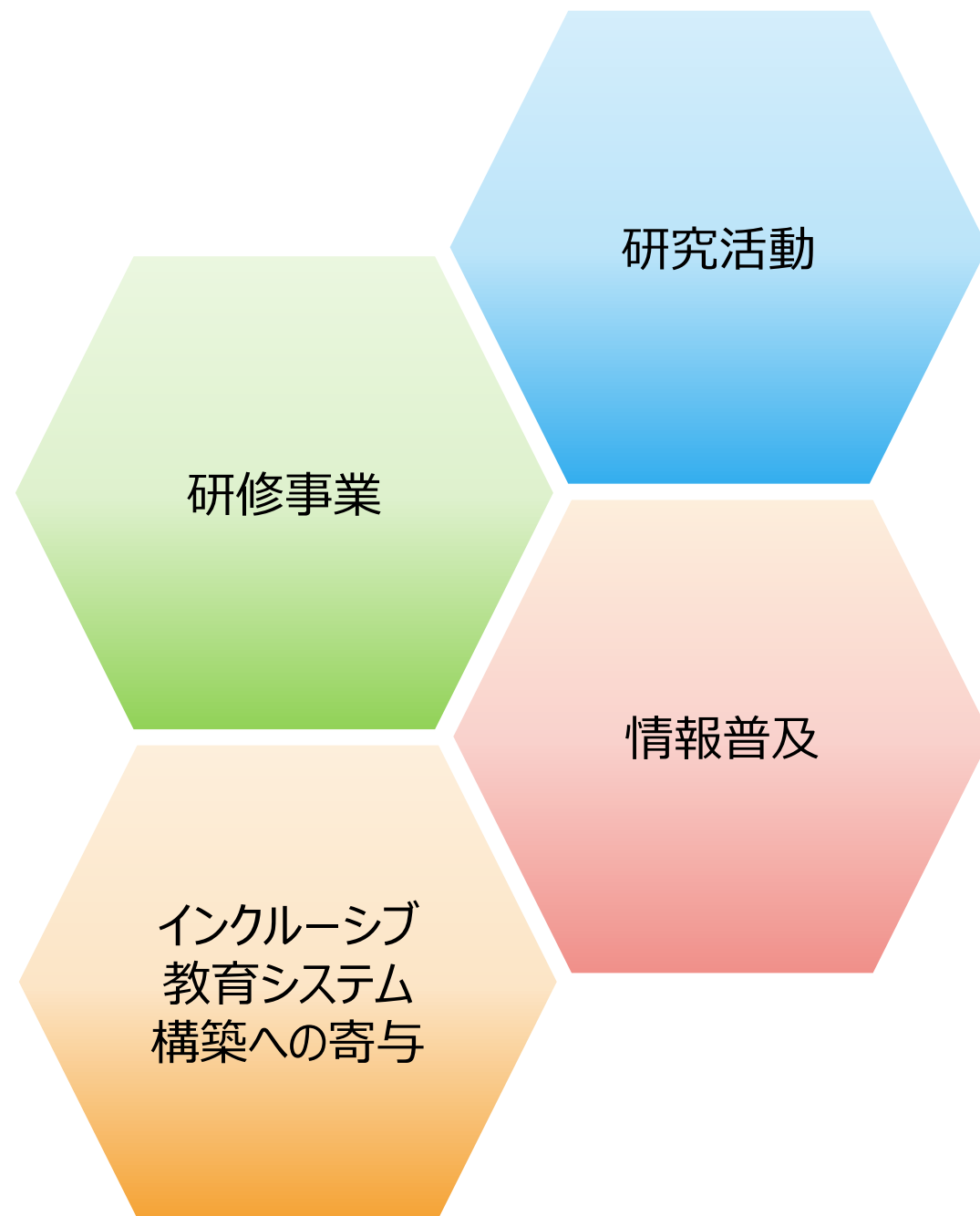




※第5期中期目標期間（令和3年度～令和7年度）

**我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンター**として、インクルーシブ教育システムの構築に向け、国や地方公共団体、関係機関等と連携・協力しつつ、教育実践を研究するフィールドを有し、実践的な研究と研修を一体的に行うことができる法人の強みを生かしながら、特別支援教育を取り巻く国内外の情勢の変化も踏まえた国の政策課題や教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応する業務運営を行い、もって障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献する。

- 特別支援教育に係る实际的・総合的研究の推進による国の政策立案・施策推進等への寄与及び教育現場への貢献
- 各都道府県等における特別支援教育政策や教育実践等の推進に寄与する指導者の養成
- 特別支援教育に関する情報普及の充実や自治体・学校への支援



研究区分		研究の性格（研究期間）
<b>重点課題研究</b>		障害種の枠を超えて、国の特別支援教育政策の推進、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究（2～3年間）。
<b>障害種別特定研究</b>		各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究（原則2年間）。
その他	<b>基礎的研究活動</b>	テーマ別研究班及び障害種別研究班における基盤的な研究。年次基礎調査や、指導の充実等に寄与する調査・分析、それらの結果の普及等の基礎的・継続的な研究活動。
	<b>先端的・先導的研究</b>	将来的な教育政策の検討資料や教育実践の選択肢を提示することを目標に行う研究（1～3年間）。
	<b>国の要請等に応じた研究</b>	国の政策立案等に貢献することを目的とした研究。
	<b>共同研究</b>	本研究所が大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究。
	<b>外部資金研究</b>	科学研究費助成金等の外部資金を獲得して行う研究。
	<b>受託研究</b>	外部からの委託を受けて行う研究。

## 重点課題研究

- (1) 教育課程に関する研究(国への政策貢献)
- (2) 切れ目ない支援の充実に関する研究 (教育現場等の喫緊の課題に対応)

### <令和6年度実施>

- (1) ・特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究
- (2) ・**多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究**
  - ・**共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－**
  - ・障害のある生徒のキャリア教育の充実に関する研究 ※新規

### <令和5年度終了>

- (1) ・高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究

### <令和4年度終了>

- (1) ・学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究
- (2) ・ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究
  - ・障害のある子どもの就学先決定の手続きに関する研究
  - ・通常の学級における多様な教育的ニーズのある児童生徒の教科指導上の配慮に関する研究

## 障害種別特定研究

<令和6年度実施>

- ・ 肢体不自由教育におけるICTの活用に関する研究

<令和4年度終了>

- ・ 知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究

## 先端的・先導的研究

<令和6年度実施>

- ・ 知的障害のある児童生徒に対する系統的なプログラミング教育推進のための先導的研究

## 障害種別研究

以下のような、各障害種に係る基礎的・継続的な研究活動を行う。

- ・各教育分野の指導の充実等に寄与する資料の収集や調査・分析
- ・各教育分野の実態等を定期的に把握・分析することを目的とした年次基礎調査
- ・上記の結果の普及

- 視覚障害教育
- 聴覚障害教育
- 知的障害教育
- 肢体不自由教育
- 病弱・身体虚弱等教育
- 言語障害養育
- 自閉症教育
- 発達障害又は情緒障害教育
- 重複障害教育

## テーマ別研究

社会的背景等から必要なテーマ別研究班を設置し、関係団体との連携を図りながら基礎的研究活動を行い、その成果を重点課題研究や国の政策立案等に生かす。

- 特別支援教育におけるICT、教材・教具の活用に関する研究
- 障害のある児童生徒のキャリア教育及び就労支援に関する研究
- 乳幼児期の特別支援教育に関する研究
- 外国につながるのある子供の特別支援教育に関する研究

研究成果は、教師が必要な情報にたどり着きやすいように、具体的な事例に沿って示したり、ポイントを整理して示したりするなど、工夫してとりまとめ、事例集やリーフレット、パンフレット、冊子など、内容に応じて様々な形式でまとめています。

## 「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」事例整理集

本資料は、文部科学省が平成28年度から平成30年度にかけて実施した委託事業「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」の委託団体の成果報告書（文部科学省のホームページにて公開：URLは巻末参照）の情報を活用しやすく提供することを目的としています。本資料の内容は以下の通りです。

- 委託団体の成果内容を支援手段、支援時期、教育的ニーズの観点で整理・分類し、下記の支援手段1～4の順で記載
1. コーディネーター等の人材の活用
  2. 関係機関等との連携
  3. ICT機器等の活用
  4. その他
- ・支援時期を三つに分類 **入院前** **入院中** **退院後**
- ・支援手段ごとに、大切なポイントを記載
- ・教育的ニーズのまとまりごとに、大切なポイントを記載

○委託団体が作成したリーフレット等の資料の紹介

※事例については、同じような内容のものは、まとめたり、代表的な事例のみを記載したりしています。

### ～用語の説明～

複数の自治体、複数年度の報告書を整理する都合上、基本的に以下の語句を用いています。

- 【病院施設内教室】**
- ・病院施設内にある、小学校や中学校が設置する学級、特別支援学級の分校や分教室。「院内学級」と表記されている報告書もある。
- 【前籍校】**
- ・入院する前に通っていた、居住地域の小・中学校等。「原籍校」や「地元校」と表記されている報告書もある。（退院後については、「地元校」と表記する）
- 【復学】**
- ・退院して、前籍校に戻ることを、入院当初から、復学に向けた取組が始まっているケースも多い。
- 【Web会議システム】**
- ・パソコンやタブレット型端末・スマートフォン等でインターネットを経由して会議を行うシステム。音声や映像だけでなく、データの共有ができるものもある。この整理集では、一部システムの異なる、テレビ会議システムやビデオトークアプリ等も「Web会議システム」と表記する。
- 【テレビプレゼンロボット】**
- ・遠隔で操作することができるロボット。タブレット型端末をセットして使用するものや、ロボットの形をしているものがある。「遠隔操作ロボット」と表記されている報告書もある。

**掲載自治体**  
 鹿児島県・秋田県・福島県・栃木県・神奈川県・山梨県・愛知県・岐阜県・高知県・京都市・山口県宇部市

## 知的障害特別支援学級の授業づくり

『すけっと』がお助けします！



2019～2020年度 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 委託研究  
 「知的障害特別支援学級授業づくり」のポイントの図解・授業づくり支援シート  
 研究発表会

知的障害特別支援学級担当者のための  
 授業づくりサポートキット (小学校編)

# すけっと



国立特別支援教育総合研究所 知的障害特別支援学級

次のページから、『すけっと』の中身を少しだけ紹介します！



事例集

リーフレット、パンフレット

刊行物（市販）

## (1) 国の政策課題や教育現場のニーズ等に対応できる**指導者の専門性の向上**

- ・各都道府県等における障害種ごとの教育の中核となる教職員を対象とした専門的・技術的な研修
- ・各都道府県等における指導的立場にある教職員を対象とした特別支援教育政策上や教育現場等の喫緊の課題等に対応した専門的・技術的な研修

の実施

## (2) 各都道府県等が実施する教員の**資質向上に関わる支援**

- ・多様な学びの場に対応した講義配信コンテンツの整備、配信
- ・特別支援学校教諭免許状取得率向上のために免許法認定通信教育及び免許法認定講習等
- ・大学等と連携した、教員養成段階の学生等を対象とした特別支援教育に関する専門的な講習

の実施



## ○特別支援教育専門研修

- ・発達障害・情緒障害・言語障害教育コース
- ・知的障害教育コース
- ・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース

※いずれも募集定員70名

※研修目的に留意しつつ、宿泊及びオンラインを適切に組み合わせ実施

## ○インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会等

- ・特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会
- ・高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会
- ・交流及び共同学習推進指導者研究協議会
- ・発達障害教育実践セミナー

## ○校長会との連携研修

- ・特別支援学校寄宿舍指導実践協議会



障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」特別支援教育eラーニングを行っています。

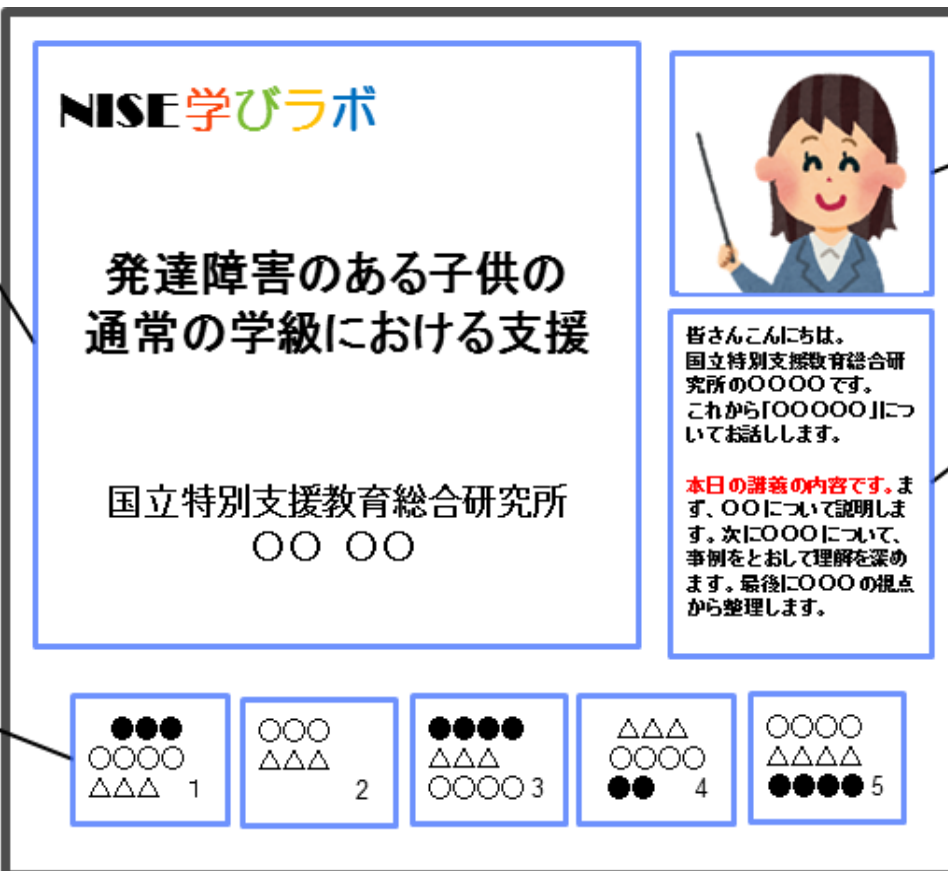


## 講義コンテンツ分類

- ① 特別支援教育全般
- ② 障害種別の専門性
- ③ 通常の学級における学びの困難さに応じた指導

## （映像講義のイメージ）

動画と連動して講義内容のスライドが示される。



NISE 学びラボ

発達障害のある子供の通常の学級における支援

国立特別支援教育総合研究所  
〇〇 〇〇

皆さんこんにちは。国立特別支援教育総合研究所の〇〇〇〇です。これから「〇〇〇〇〇〇」についてお話します。

本日の講義の内容です。まず、〇〇について説明します。次に〇〇について、事例をとおして理解を深めます。最後に〇〇〇〇の視点から整理します。

1 2 3 4 5

講師の映像が動画で示される。



講師が話す内容がテキストとして示される。

スマートフォンやタブレット端末にも対応

前後のスライドがスクロールする。

## ○団体登録により研修プログラムの設定が可能

教育委員会等の機関が主催する研修等で、受講者のニーズに合わせて複数の講義コンテンツを組み合わせた研修プログラムが設定できます。

※修了者には視聴証明書を発行。

※主催者が受講者の視聴状況を確認することも可能。

令和5年4月から、教員として採用される予定の学生など、これから教員になる方に向けて、インクルーシブ教育システムの基本や、各学校における特別支援教育の概要について学ぶことができる講義動画プログラム「これから教員になる人たちのために」の提供を新たに開始しています。

No.	研修プログラム
1	インクルーシブ教育システムについて学ぶ
2	特別支援教育コーディネーターになったら
3	特別支援学級（知的障害）の担任になったら
4	特別支援学級（自閉症・情緒障害）の担任になったら
5	特別支援学校の教師になったら
6	通級による指導の担当者になったら
7	小学校・中学校等の管理職になったら
8	すべての教職員を対象に：本人・保護者に寄り添った指導・支援のために
9	幼児期における特別支援教育
10	高等学校段階における特別支援教育
11	これから教師になる人たちのために

## ○「研修の手引き」（令和6年3月）

教育委員会等において、「N I S E 学びラボ」を活用した研修を企画する際の参考となるよう、研修の事例や提案、研修プログラムを紹介した手引きを作成しました。



### 2 配信研修と遠隔研修を組み合わせたハイブリッド型研修の事例

(埼玉県立総合教育センター)

本研修は、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる研修」をコンセプトとして、配信研修と遠隔研修を融合させ、場所や受講日時を限定せずに、特別支援教育に関心のある教職員なら誰でも参加できる研修です。対象は、自治体が所管する公立幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校等の教職員全員としています。研修全体の枠組みとしては、「NISE 学びラボ」を活用した配信研修、異校種の教職員との情報交換や協議のための定期的なオンラインミーティング、大学教員によるオンライン講義の3つのコンテンツで構成されています。

このうち、「NISE 学びラボ」を活用した配信研修は、「いつでも」学べるコンセプトに対応したコンテンツとして、受講者が自身の興味関心に合わせて柔軟に講義内容を選択し、任意の時間に学ぶことができます。各受講者の視聴履歴は、システムを通じて自治体で確認することも可能です。

本研修では、視聴履歴に応じて修了書を出したり、学習のフィードバックとしてレポートの提出を求めたりすることはしていませんが、学んだ内容を基にオンラインミーティングで協議を深めるなど、3つのコンテンツで相乗効果を得られるように工夫がなされています。



#### 本事例のポイント

- 「NISE 学びラボ」にある174のコンテンツ（令和6年3月現在）から、受講者が講義を選定しやすくするために、自治体独自のコースを設定しています。例えば、「知的障害特別支援学級コース」や「高等学校における特別支援教育コース」が設定され、受講者のニーズに応じて分かりやすく受講できる工夫がなされています。
- 情報交換や相談のための定期的なオンラインミーティングでは、円滑な話し合いを行うため、ウェブのアンケートフォームを使って受講者の話し合いたい内容や質問などを事前に収集しています。研修サイトを用いて質問への回答を掲載したり、ウェブ会議システムで質問や協議できる時間を設定して指導主事が直接質問に答えたりする時間も設定しています。ウェブ会議システムのアンケート機能を活用して受講者の回答をリアルタイムで全体共有するなどの工夫も行われています。

無料

## NISEが実施する免許法認定通信教育

講義・教材配信システム  
インターネットを利用した

- ・受講申込の受付
- ・放送講義・教材の配信
- ・受講状況確認



全国の複数会場  
で単位認定  
試験を実施



パソコン・スマート  
フォン・タブレット  
端末等で講義を視聴

免許法認定通信教育総合情報サイト  
<http://forum.nise.go.jp/tsushin/>

## 開講スケジュール

前期 令和6年5月7日～令和6年8月17日

視覚障害教育 心理、生理及び病理

聴覚障害教育 心理、生理及び病理

※ 単位認定試験：令和6年9月8日（日）全国複数会場

後期 令和6年9月30日～令和7年1月10日

視覚障害教育 教育課程及び指導法

聴覚障害教育 教育課程及び指導法

※ 単位認定試験：令和7年2月2日（日）全国複数会場

申込み方法はホームページをご覧ください。  
<http://forum.nise.go.jp/tsushin/>

## 受講対象者

特別支援学校や特別支援学級に勤務し、特別支援学校教諭免許状を保有していない教員を優先します。

必要な単位を全て修得

特別支援学校教諭免許状を取得

視覚障害領域  
聴覚障害領域  
第2欄の科目

特別支援学校教諭免許状を保有していない特別支援学校教員等

その他修得すべき科目

大学・教育委員会等が実施する免許法認定講習等

特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状取得率向上に寄与

- HP、LINE、メルマガによる情報発信
- 指導や支援のヒントに手軽にたどり着けるポータルサイトやリーフ等の提供
- 理解啓発のための見学受入、研究所公開
- 研究成果の普及のための刊行物の発行やセミナー等の開催





## 主なコンテンツ

- ① 発達障害の理解
- ② 指導・支援
- ③ 研修講義動画
- ④ 発達障害Q&A
- ⑤ 発達障害に関する研究
- ⑥ 国の動向や法令等
- ⑦ イベントや研修会の情報

研修講義の一部はYouTubeでも視聴可





## 発達障害ナビポータル

<https://hattatsu.go.jp/>

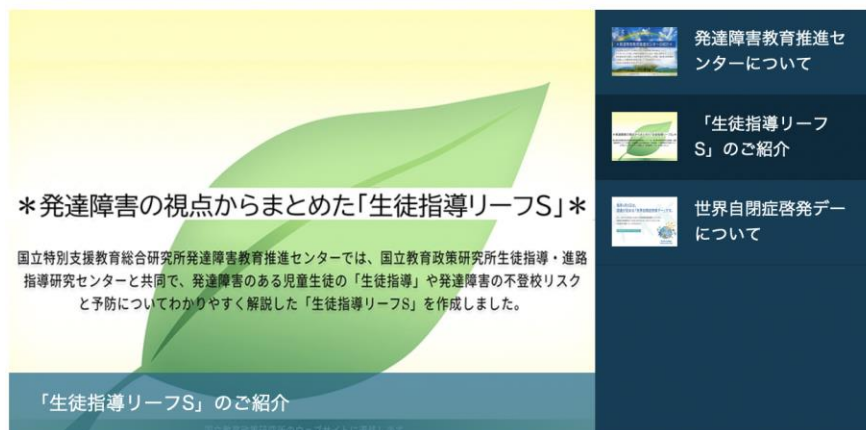
 発達障害ナビポータル  
国が提供する発達障害に特化したポータルサイト

キーワードを入力

検索



発達障害ナビポータルは、厚生労働省と文部科学省の協力の下、国立障害者リハビリテーションセンター（発達障害情報・支援センター）と国立特別支援教育総合研究所（発達障害教育推進センター）の両センターが共同で運用する発達障害に関する情報に特化したポータルサイトです。



\*発達障害の視点からまとめた「生徒指導リーフS」\*

国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センターでは、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターと共同で、発達障害のある児童生徒の「生徒指導」や発達障害の不登校リスクと予防についてわかりやすく解説した「生徒指導リーフS」を作成しました。

「生徒指導リーフS」のご紹介

ご本人・ご家族	
乳幼児期	
学童期・思春期	
青年期・成人期	
保護者・家族向け	
働く	▼
暮らし	▼
特集	
お知らせ	
トピックス	
イベント	
情報検索ツール『ココみて』	

- 国が提供する発達障害に特化したポータルサイトです。
- 発達障害に関する信頼のおける情報を提供します。

### 共同運営

- 厚生労働省
- 国立障害者リハビリテーションセンター
- 文部科学省
- 国立特別支援教育総合研究所





本サイトについて ▾ 詳細検索 ▾ リンク集

検索する

教材・支援機器 実践事例

検索はキーワードを入力してください。

急上昇ワード 見る テレビ

技術 テレビ会議

Pick Up

いろいろな実践を知りたい！  
どんな教材があるの？  
この教材、どうやって使うの？

**支援教材ポータルサイト  
リニューアルしました**

## ICT機器を使った国語科と算数科学習への取組

**概要**  
意思伝達のコミュニケーション支援として、文字入力やシンボルを押すことで音声を発信したり、文字を書いたりすることで、相手への自分が伝えたいことを伝える。

**事例**  
05-2①.pdf

詳細 ▶

## デジタル教科書、実物投影机、iPadを活用した説明文の学習

**概要**  
特別支援学級(知的障害)での3・4年生、12名の合同授業でデジタル教科書、実物投影机、iPadを活用し、説明文「しかけカードの作り方」の内容の理解を図った。

**事例**  
C94-20.pdf

詳細 ▶

## フラッシュ素材を使ってお話しをつくらう

**概要**  
異学年、知的障害を伴う異なる障害種の児童が、ソフトウェア「フラッシュ教材試作集～あそんでつくるプリント教材～」を使って、お話し作成に取り組み、発表することができた。

**事例**  
C94-19.pdf

## おすすめの教材・支援機器

聞く 見る

### ICレコーダー



聞くことが苦手な子どもは、耳から入る情報を即時に処理することが苦手です。ICレコ…

### 感情表現ツール



絵カードやシート、シールなどいろいろな表情が描かれています。自分の気持ちがどれに当…

### ポメラDM20



すぐに起動ができ、書き留めることが可能

### オーバーレイメーカー



インテリキー専用のキーボードをレイアウトするソフトウェア。コンピュータ操作が難しい方…

### 携帯型デージープレイヤー



DAISY録音図書を手軽に再生できる。MP3の音楽データ再生機能やボイスレコーダー機…

### チェンジングボード



視覚障害者用のホワイトボード

## お知らせ・新着情報

- ▶ 2023/12/27 **お知らせ** 福島県立特別支援学校での実践事例78件を掲載しました
- ▶ 2023/12/19 **お知らせ** 宮城県立特別支援学校での実践事例80件を掲載しました
- ▶ 2023/12/05 **お知らせ** 支援教材ポータルをリニューアルしました
- ▶ 2023/12/27 **実践事例** 修学旅行における同級生とのリモート通信
- ▶ 2023/12/27 **実践事例** 学校祭のポスターにデジタル表現を取り入れた活動

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号  
電話番号:046-839-6803(代表) 法人番号:4021005008147

サイトポリシー アクセシビリティポリシー

幼稚園等、小・中学校、高等学校等で特別支援教育の指導の経験のない又は経験年数の少ない教員に対する特別支援教育の理解啓発・普及を目的としたリーフレットを作成。



## ① 「まずはここから」シリーズ

- Vol.1 ここからはじめてみよう、特別支援学級
- Vol.5 このように考えよう、合理的配慮
- Vol.7 みんなの思いを言葉にしよう！つなげよう！  
～個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用～
- Vol.11 「交流及び共同学習」の授業づくり
- Vol.13 障害のある子供へのキャリア教育

## ② 「こんな子いませんか？」シリーズ

- Vol.8 聞こえにくさのある子供の理解と支援
- Vol.9 感情をコントロールすることが苦手な子供の理解と支援
- Vol.10 人前で話すことが苦手な子供の理解と支援
- Vol.12 急な予定の変更に対応することが苦手な子供の理解と支援
- Vol.15 見えにくさのある子供の理解と支援
- Vol.16 子どもの話す「こどば」が気になる先生へ

## ③ 「こんな取組、してみませんか？」シリーズ

- Vol.2 障害のある子供も共に楽しむ体育の授業
- Vol.3 学習や生活を豊かにするICT
- Vol.4 多様性の理解につながる『障害理解』
- Vol.6 活用してみよう、「センター的機能」
- Vol.14 キャリア・パスポートを作成と活用

## ICT活用実践演習室 [あしたの教室]の活用

通常の学級で、障害や困難さがある児童生徒が共に学ぶために、ICT機器を使ってどのような支援ができるかを、授業スタイルで考えるための研修や演習を行う教室です。



(ICT機器を活用した通常の学級の授業を体験)

(あしたの教室内を仕切り、病院を想定し、遠隔で授業に参加している状況を体験)



## 教育支援機器等展示室 [ライブラリー]

障害のある子供一人一人の教育的ニーズに応じた支援を実現する様々な教育支援機器やソフトウェアの展示室です。

主に、学校で利用可能な市販品を障害種ごとにコーナーを設け、説明パネル等を使って紹介しています。



## 【生活支援研究棟】

盲ろう児及びそのご家族、指導を担当する教員等の支援者が、様々な生活場面を体験したり、指導や支援のヒントを得たりすることができる研究・研修施設です。

(部屋の例)

感覚遊び・リラックスルーム



触覚、音、香り、揺れ、振動等、様々な感覚を盲ろう児と指導者が一緒に体験し、子供の新たな興味・関心や活動のヒントを得ていただく。

キッチン



食事を作ったり、食べたりすることができる。  
盲ろう児の自立した生活に向け、自分で食事等を準備したりするための環境を検討していただく。

研修ルーム

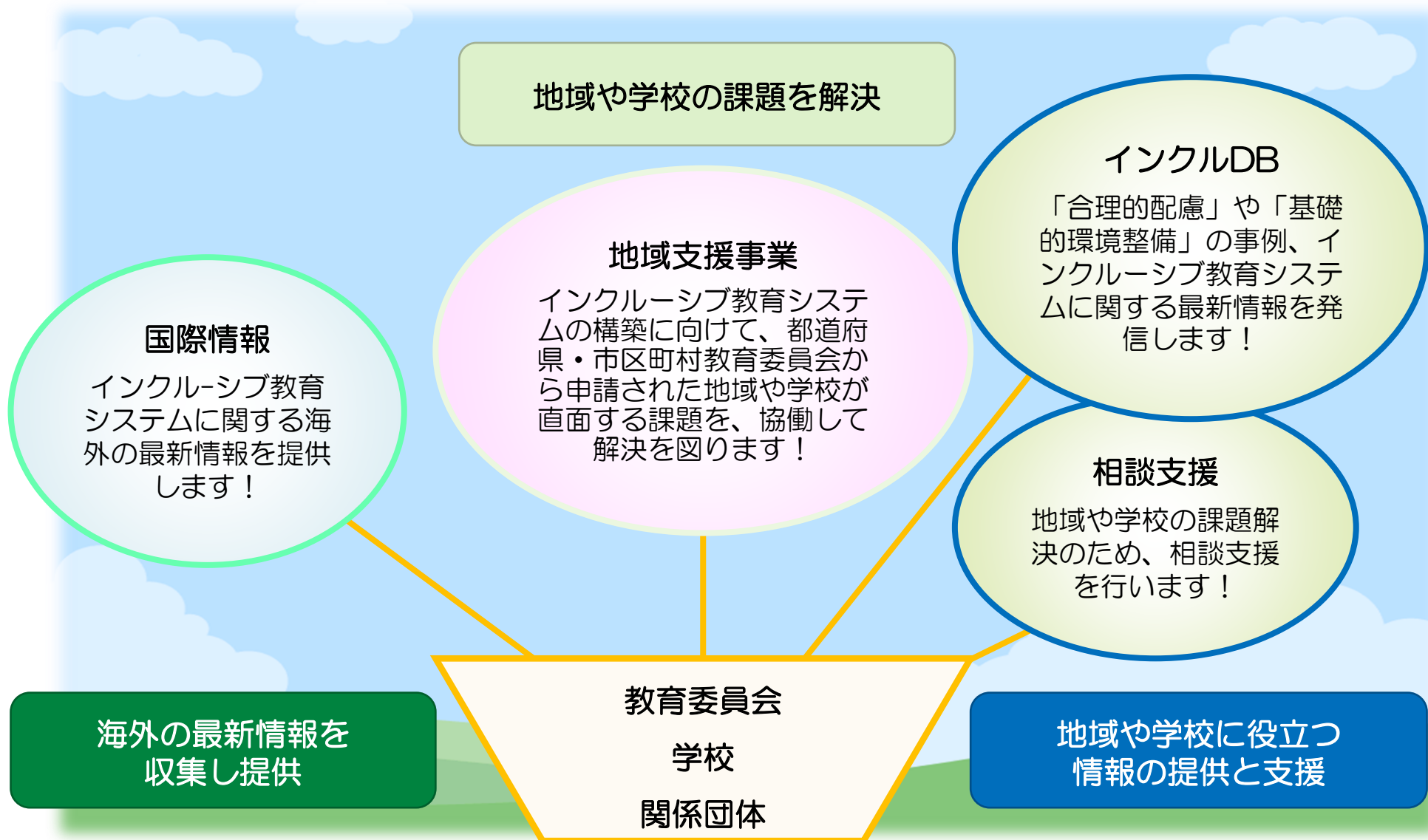


盲ろう児の指導・支援に関する研修や検討・協議をするための研修スペース。

# インクルーシブ教育システム構築への寄与

「インクルーシブ教育システム推進センター」（平成28年4月設置）

インクルーシブ教育システムの構築を一層推進するため、**地域や学校の取組を強力にバックアップ**していきます。



## 教育委員会と研究所が連携して 地域のインクルーシブ教育システム構築を推進する事業です



### 具体的には・・・

- 研究所と日常的に連携して、インクルーシブ教育システム構築に関する課題の解決に向けた取組を推進します
- これまでの「地域実践研究」の研究成果を活用できます
- 他の地域と情報交換することができます
- 事業の成果を、研究所と協働して地域に普及することができます

### 事業内容の例

- 専門性のある指導体制の確保  
教育委員会主催の研修  
切れ目ない支援体制
- 交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムに関連した理解啓発  
通常の学級担任向けの校内研修プログラム  
障害理解授業  
リーフレット作成

### 令和6年度 参加自治体 (15県市区町)

- |       |              |               |
|-------|--------------|---------------|
| • 青森県 | • 名古屋市       | • 鳥取市 (鳥取県)   |
| • 栃木県 | • 赤平市 (北海道)  | • 阿久根市 (鹿児島県) |
| • 山梨県 | • 一戸町 (岩手県)  | • 枕崎市 (鹿児島県)  |
| • 広島県 | • 宮古市 (岩手県)  |               |
| • 宮崎県 | • 豊島区 (東京都)  |               |
| • 沖縄県 | • 秦野市 (神奈川県) |               |

### 令和6年度 実施計画

- 4月25日 事業説明会 (リモート)
- 8月下旬 推進プログラム (研究所)
- 9月～ 交流スペース (リモート)
- 3月上旬 事業報告会 (リモート)  
各自治体での報告会等



# インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）

- 文部科学省の「インクルーシブ 教育システム構築モデル事業」等で得られた「合理的配慮」の実践事例をデータベース化
- 令和5年度事例ダウンロード数、80,335件
- インクルDBの活用について説明したセミナーをYouTube（NISEチャンネル）で公開  
(<https://youtu.be/n00l8xWfTQE?si=ir5KErS-ajWAXUmt>)



- ・ 海外のインクルーシブ教育システムに関する情報を収集し、研究所セミナー、ジャーナル等で広く発信しています。
- ・ 海外の研究機関等との交流、研究職員の海外派遣、海外の教育行政担当者や学校教員等の視察・研修の受け入れ等を通じて国際交流を推進しています。

## ○ 国立特別支援教育総合研究所ジャーナルでの発信

収集した海外の情報を、特総研ジャーナルより情報発信。  
「各国におけるインクルーシブ教育システムの動向」を紹介しています（ウェブサイトから御覧いただけます。）。

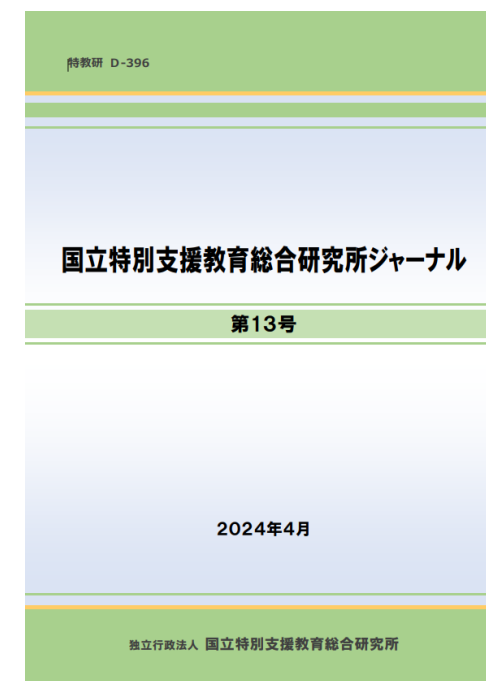
## ○ 海外の研究機関との研究交流の推進

### 【 研究交流協定締結機関 】

韓国国立特殊教育院（平成7年11月締結,令和元年7月再締結）  
ケルン大学人間科学部（平成10年11月締結）  
フランス国立特別支援教育高等研究所（平成27年3月締結）

## ○ 韓国国立特殊教育院との交流

両機関の情報共有と交流を深めるため、特別支援教育協議会の開催等を実施。



ジャーナル第13号  
(令和6年4月発行)





## 令和6年度 研究所公開

日にち : 令和6年11月9日(土)

場所 : 国立特別支援教育総合研究所(神奈川県横須賀市野比)

内容 : 講義、教材・教具や支援機器等の展示・実演、障害種別研究班による体験型展示 等

## 第3回広島大学D&I and NISE ジョイントセミナー テーマ「外国にルーツのある子どもたちのインクルーシブ教育」

日にち : 令和6年12月8日(日)

場所 : 広島大学フェニックス国際センター ミライクリエ大会議室(広島県東広島市鏡山)

※オンライン配信併用予定

内容 : 登壇者発表、ディスカッション 等

## 令和6年度 国立特別支援教育総合研究所セミナー

日にち : 令和7年3月8日(土)

場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木)

※一部、オンライン配信予定

内容 : 文部科学省行政説明、研究の報告・発表 等

**参加申し込み方法など、ホームページ等で順次ご案内してまいります。  
ぜひ、ご参加ください。**

# とくそうけんのおはなし

す 好きなこと 嫌いなこと  
 とくい 得意なこと にくがて 苦手なこと  
 そだ 育った環境や文化



あなたと全く同じ人はいませんね。

しゃかい 社会には、  
 いろいろな人たちが一緒に暮らしています。

みんな違う私たちが、  
 お互いのことを知って、大切に思い合うことで、  
 誰もが安心して生活できる社会につながります。

これは、学校での生活や学びについても同じです。

しょうがい 障害のある子もない子も  
 おも 思い切り力を発揮できるように、

とくそうけんは  
 ひとりひとりの学びを応援しています。



とくそうけんは、  
 しょうがい 障害など支援が必要なこどもの教育に関する国の研究所です。

たよう ひと 多様な人たちが  
 ども まな あ 共に学び合える  
 かんきょう 環境がある

だれ ちから だ 誰もが力を出せる  
 ここ よ そ 個々に寄り添った  
 しえん 支援がある



このような学びを実現するために、様々な活動を行っています。

## けんきゅう 研究

みんなが学びやすい環境  
 づくりや支援の工夫を、  
 教育委員会や学校などと  
 一緒に研究しています。

## けんしゅう 研修

こどもの支援に必要な  
 知識や授業のヒントを  
 得られるよう、学校の  
 先生を支援しています。

## じょうほうはっしん 情報発信

必要とする支援にたど  
 り着けるように、友達  
 のことをもっと理解で  
 きるように、みんなに  
 情報を届けています。

## ちいきしえん こくさいじょうほう 地域支援・国際情報

自治体の取組を支援し  
 ています。  
 海外の取組を国内に  
 紹介しています。



とくそうけん

の

おはなし

とく そうけん

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

